

テーマ別名刺交換会 記録シート

テーマ	⑦児童養護施設等を退所した若者の支援 (Aグループ)				
リーダー	春田 (児童養護施設鹿深の家)				
進行補助	春田 (鹿深の家)	記録	岩本 (県社協)	参加者数	12名
<p>1. 課題提起されたこと、グループでの意見交換の視点 (箇条書き)</p> <p>児童養護施設を退所後にいかに社会とつながっていくか。</p>					
<p>2. 参加者の気づき、課題と感じていること (箇条書き)</p> <p>○縁でつながっていくことが大切。縁の事業をきっかけに企業・事業所の方に社会的養護の子どもたちのことを理解してもらえるようになったのは5年間の成果である。</p> <p>○企業として、児童養護施設を退所した子どもも普通の家庭の子どもも同じと感じている。「あなたがいないと困る」という気持ちが伝わってつながっている。</p> <p>○社協へは退所後すぐの相談はない。退所後生活困窮になった、事件があったなどなんらかのことがあって社協につながっている。居場所はあるけど、つながりがない退所後の支援をするコーディネーターがいるのでは。</p> <p>○子どもが相談にくるのは、緊急でくることが多い。本人が支援してもらうことに遠慮していることが多い。本人が困っているのに主体的に動くことが難しい。支援する側にも遠慮が出てくる。施設側も自分たちでなんとかしないと、という気持ちが強い。</p> <p>○施設職員が目前のことにいっぱいになって先を考えられない。自分の力を子ども本人が信じていない。施設の職員も子どもの力を信じられていなかった。子どもが自信を持っていないのは、社会の目が「施設にいる子はかわいそうな子」という刷り込みが入っているからでは。続いていくモデルが必要。</p> <p>○社協の仕事をもっと知ってもらうことが大切。制度と分野の垣根を超える</p> <p>○たくさんの人とつながっていくことが大切。地域とネットワークがつながっていくことが大切。退所時に市町の関係機関が知らないことが多かったので、入所時に知らせてケース会議を継続している。相談する力を3年間で身に着ける。SOSを伝える力を持っていると生きていける。あなたの周りに応援団がいることを、学園にいる中で実際に会ってつながっていくことで、あなたは一人ではないというメッセージを伝えておく。</p> <p>☆それぞれの分野で頑張っている方が自分たちがなんとかしないといけないという気持ちが強く、“遠慮”して周りとうまくつながれない。任せ側は意外と重く考えていないので。遠慮せず垣根を越えていく必要がある。</p>					
<p>3. 現場の課題に対応して、だれと、何を創造実践していきたいか (箇条書き)</p> <p>☆つながりをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護と障害など分野の横断を実践していきたい。 ・各施設や機関がどんな役割を担っているのか、情報交換できる場が欲しい。 					